第 23 回子どもチアリーディング大会
～山形チアリーディングチーム　エキシビション　敢闘賞獲得～

第 23 回子どもチアリーディング大会が 2 月 11 日、京王アリーナ TOKYO で開催された。

ジュニアスター55 チーム、混成（小学生から高校生の混成チーム）4 チーム、合計 59 チームが出場したエキシビションで、山形チアリーディングチームが敢闘賞を獲得。小学生から中学生のメンバー16 人で、素晴らしい演技を披露した。

今年で創部 20 年目。東北の地でチアリーディングに情熱を注いできたコーチが立ち上げたチームは 1 歩、1 歩、進化を遂げている。
2024 年に初めて JAPAN CUP 日本選手権への切符を手にし、昨年の夏も大舞台を経験した。タンブリングにスタンツ、演技構成もレベルの高いものになり、全国レベルの大会でも確かな足跡を残せるようになってきた。

「大学を卒業してから引退していた時期もあったのですが、宮城県の仙台で社会人チームを作ってまたチアをやるようになり、引退してからはキッズチームを立ち上げました」（コーチ）

東北ではチアリーディングのチームがまだ少ないため、北海道選手権に出場していた時期もあったという。

創部当時も、20 年が過ぎた今も、練習場に競技用マットはない。市内の体育館を借りて「パズルマットで練習をしているんです」と教えてくれた。
４歳から中学校 2 年生まで、38 人が真剣にチアに取り組んでいる。
小学校 6 年生のチームリーダーは、この日の演技をこう振り返った。
「スタンツやタンブリングもノーミスでできたけど、細かいところまで意識して、もっといい演技ができるようにしたいです」

初出場から2大会連続でJAPAN CUP日本選手権の大舞台を経験したが、いずれもフライデートーナメントで姿を消している。

母の影響で3歳からチアを始めたという小学校6年生のサブリーダーは、この春から中学生になるため、チームの最高成績を更新することを目標に掲げた。「次のジャパンカップは準決勝まで行けるようにしたいです。今日も、本当は銅賞を目標にしていました。敢闘賞だったのは少し悔しいですけど、次の大会までに綺麗なノーミスの演技ができるように頑張ります」

東北でチアを根付かせようとしているコーチには、まだ続く夢がある。

「20年かけて、やっと、思い描いていたチームになってきました。でもまだ東北のチア人口は少ないんです。私たちのチームに憧れて、チアをする子たちが増えてくれればとても嬉しいと思っています」

演技を終えると、彼女たちは新幹線で山形へ戻っていった。

今年の夏には、成長をして、もっと輝く演技を見せてくれることだろう。

本サイトの記事、写真の転載はご遠慮ください。無許可の転載・複製は法律により罰せられます。
Unauthorized reproduction or duplication is punishable by law.